

環境用語辞典

ア カ サ タ ナ ハ マ ヤ ラ ワ 英数

ア

【アルミ再生地金(さいせいじがね)】

使用済みのアルミ缶などのアルミ製品を回収(かいしゅう)し、再利用のために高温で溶(と)かして固めた物。

【アルミニウム】

ボーキサイトという鉱石(こうせき)からつくられる金属の一種。軽くて、さびにくい、加工しやすいなど、すぐれた特徴(とくちょう)があり、さまざまな物に使用されている。

イ

【異常気象(いじょうきしょう)】

異常(いじょう)な高温、冷夏、大雨など、ふつうとは異(こと)なる気象(きしょう)のこと。日本の気象庁(きしょうちょう)では、過去30年の観測(かんそく)と比較(ひかく)して大きく変化した気候(きこう)としている。近年の地球温暖化(おんだんか)を原因とした、猛暑(もうしょ)や干ばつ、回数が増えて大型化している台風、ハリケーン、サイクロンなども異常気象(いじょうきしょう)と呼ばれることが多い。

【違法伐採(いはうばっさい)】

木材を生産している国・地域(ちいき)の法律に違反(いはん)して木を大量伐採(ばっさい)すること。保護(ほご)されているめずらしい種類の木や、大量の伐採が森林破壊(はかい)の一つの原因になっている。

エ

【エコタウン事業(じぎょう)】

限りある資源を有効(ゆうこう)に活用するために、経済産業省(けいざいさんぎょうしょう)と環境省(かんきょうしょう)が、ゴミをへらしてリサイクルを進める地方自治体(ちほうじちたい)の新しい環境まちづくりの計画、取り組みを支援(しえん)する事業(じぎょう)のこと。地方自治体は、それぞれの地域(ちいき)の特性(とくせい)を活かして、住民や地域の企業(きぎょう)と協力して取り組む「エコタウン計画」を作成し、経済産業省および環境省の承認(しょうにん)を得て支援(しえん)を受けるしくみとなっている。

【エコバッグ】

スーパーマーケットやコンビニエンスストアなどで商品(しょうひん)を購入(こうにゆう)したときに、お店で渡されるレジ袋を使わないために持ち歩く、買い物用バッグのこと。マイバックとも呼ばれ、環境保護(ほご)や資源保護のためにレジ袋をへらすことを目的に使われる。

【エネファーム】

家庭用の[燃料電池](#)（ねんりょうでんち）[コージェネレーションシステム](#)〔熱電併給（ねつでんきょうきゅう）システム〕のこと。都市ガス、LPガス、灯油（とうゆ）などのエネルギーから燃料となる[水素](#)を取り出し、空気中の酸素と化学反応（かがくはんのう）させて、電気をつくり出し、発電のときにでる熱でお湯をつくる装置。ガス会社、石油会社など複数の会社から発売されている。

オ

【オーガニックコットン】

無農薬でつくられた綿花（めんか）のこと。3年間、農薬と化学肥料（かがくひりょう）を使用していない畑で作られ、加工（かこう）の段階（だんかい）でも農薬や化学肥料を使わずに生産された綿花。無農薬栽培（さいばい）であることは、専門の機関（きかん）が証明（しょうめい）するしくみとなっている。

【オゾン層】

酸素に[紫外線](#)（しがいせん）が当たるとオゾンという物質（ぶっしつ）に変化する。私たちの住む地上から10～50kmの空にある成層圏（せいそうけん）に多くのオゾンが集まっていて、オゾンの濃度（のうど）が高い部分をオゾン層という。オゾン層は人間や生物にとって有害（ゆうがい）な太陽の[紫外線](#)（しがいせん）をブロックし、このオゾン層がなければ人間や生物は地上では生存できない。

【オゾンホール】

スプレーや冷蔵庫などのガスとして使われていた[フロン](#)ガスが太陽光によってオゾンと反応してオゾンがこわれ、うすくなる状態（じょうたい）のこと。毎年9～10月、南極の上空で[オゾン層](#)が急激（きゅうげき）に減少し、オゾンの量が少ない領域（りょういき）が穴のように発生することから、オゾンホールとよばれるようになった。

【オニヒトデ】

ヒトデの一種で、インド洋、西太平洋などに生息（せいそく）する。時に大発生することがあり、多くのサンゴを食べてしまうため、問題となっている。

【温室効果（おんしつこうか）ガス】

太陽からの熱を地球に封（ふう）じこめ、地表（ちひょう）をあたためる働きのあるガスで、[地球温暖化](#)（おんだんか）の主な原因となっている。[京都議定書](#)（きょうとぎていしよ）において、二酸化炭素〔[CO₂](#)〕（にさんかたんそ）、[メタン](#)〔CH₄〕、亜酸化窒素〔N₂O〕（あえんかちつそ）、ハイドロフルオロカーボン類〔HFCs〕、パーフルオロカーボン類〔PFCs〕、六フッ化硫黄〔SF₆〕（ろくふっかいおう）の6種類のガスと定める。

【温室効果（おんしつこうか）ガス削減（さくげん）目標】

1997年につくられた[京都議定書](#)（きょうとぎていしよ）において決められた、[先進国](#)（せんしんこく）の温室効果（おんしつこうか）ガスの削減（さくげん）目標のこと。日本は、2008年から2012年までの5年間の[温室効果ガス](#)排出量（はいしゅつりょう）の平均を、1990年に比べて－6%とすることが決められている。